

未来への希望

中 一

僕は双子だったので普通の赤ちゃんよりも小さく生まれてきました。呼吸が上手くできなかつたので、気管切開という手術をしてチューブを入れて呼吸しています。生きるために声を失いました。だから筆談で皆と話します。

しゃべれないことはとても不便です。そして筆談は大変です。遠くにいる友達を呼べなかつたり、別の部屋にいる家族に気づいてもらえなかつたり、電話をかけることも出来ません。筆談で話したり、ファックスしたりすることはできるけれど、急いでいると上手く書けないこともあります。また思いが伝わらなくて誤解させたり、迷惑をかけたりにしてしまいます。そんな時はとても悔しい気持ちになります。本当はおもしろいことを言って笑わせるなど、伝えたいことが沢山あります。上手く会話が出来ることもっと仲間が増えるなど実感しています。

クラスの友達は小学校の頃から一緒なので僕のことを理解してくれます。中学校に入学して自己紹介する時、筆談帳に書いた僕の言葉を代わりに読んで発表してくれました。係や委員会も僕に出来る仕事をさせてくれました。いつも協力してくれて感謝しています。

また、僕は音楽が好きで、ピアノも弾けるので吹奏楽部に入部しました。けれど吹くことが出来ないでパーカッションやピアノの担当をさせてもらいました。先輩達も協力してくれて障害のある僕にも出来ることが増えました。沢山練習して早く演奏を覚えて最高の曲にしたいです。

障害がある僕にも出来ることがあるように、皆その人にしか出来ないことがあると思います。だから理解し合って不自由のない世の中になったら良いと思います。

小学校の時、アイマスク体験や車イスの体験をしました。僕は足が不自由だったので車イスの不便さは知っていました。目が見えませんが、目が見えないことがこんな

に怖いとは思っていませんでした。健康な人も色々な体験をして、色々な障害がある人の気持ちや不便さを分かってくれると良いなと思います。

小学校の時、担任の先生が、一日僕と筆談で過ごしてくれました。

「気持ちが悪く伝わらないってとても辛いんだね。今まで良く頑張ってきたのね。」

と僕に言ってくれました。僕の気持ちを分かってもらえてとても嬉しく思いました。皆も一日話せないで筆談で過ごしていたら、きっと大変だということが分かると思います。また自分でも色々な体験をしたり、福祉ボランティアをしたりして体が不自由な人の気持ちを理解出来る人になりたいです。健康な人も年を取って体が不自由になる人もいます。新聞やテレビのニュースで、介護ヘルパーや看護師になる人が少ないと知りました。皆で障害がある人やお年寄りを支えられる世の中になって欲しいです。僕も色々な障害があるけれど、沢山福祉の体験や勉強をして、障害がある人やお年寄りを助け

られる人になりたいです。



